狭山ステキ発見

伝説の英雄 日本武尊の伝承を狭山市内に追う

はじめに

日本武尊の東征については古事記や日本書紀に断片的に記載されているだけで、ミステリアスな人物だが、狭山市には由緒の神社が３社もあります。

日本武尊東征由緒は、東海・関東・東北・中部の各地の神社に１４０社余、武蔵国内では川越（１）、狭山(3)、飯能(1)、入間(1)、秩父(4)の１０社があります。狭山市の数多い史跡の中で「廣瀬神社・野々宮神社（七曲井）・堀兼神社（堀兼之井）」の３ヵ所が日本武尊東征（復路）の足跡として該当しました。

何故、日本武尊の東征がおこなわれたのか

一説によると、『日本書紀に景行天皇の皇子７０人余りを、各国や郡に封ぜられて各国を統治した』とあります。

景行天皇の二代前の崇神天皇の時代、四道将軍により、地方の有力者を国造に任命しそのままその国を治めさせていました。

当時の四道は北陸、東海、西道、丹波で九州は含まれていません。景行天皇の代になり天皇自ら熊襲討伐のため九州に出向いていますし、帰国後も熊襲再逆のため日本武尊を九州に派遣しています。新たに派遣した国造と意見が合わず、帰順していた東海道内で朝廷の命令に服さない地域が発生したため、たとえ、地方では住民に添われていた首長であっても討伐の命が下ったのではないでしょうか。

（注）：往路、復路の経路および地図に記載されている神社等は由緒の有無を基準に抽出してありますので、「古事記・日本書紀」等の記述と一致していません。

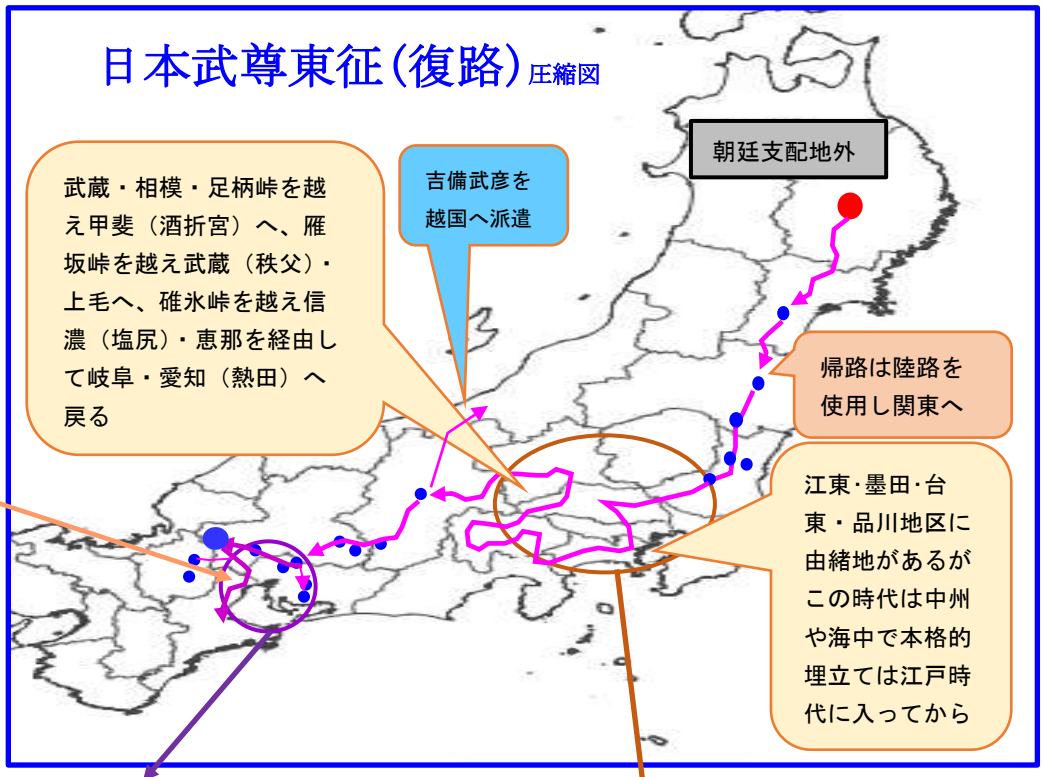
表紙：月百姿 賊巣乃月 小碓皇子像
画家：月岡芳年（1886 年制作）
ID: 201403010000 に加筆

目　次

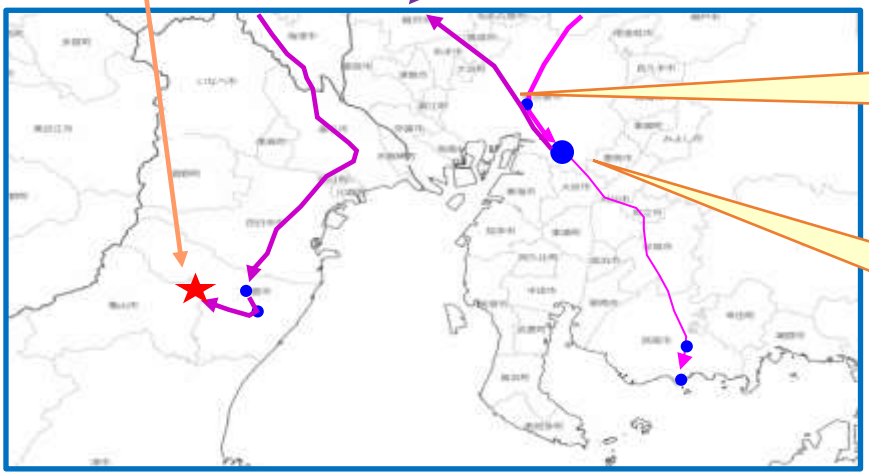
表紙	１頁
はじめに	２頁
東征地図（往路）	３頁
東征地図（復路）	４頁
堀兼神社	５頁
野々宮神社	６頁
廣瀬神社	７頁
あとがき	８頁

日本武尊東征（往路）圧縮図

日本武尊東征（復路）圧縮図



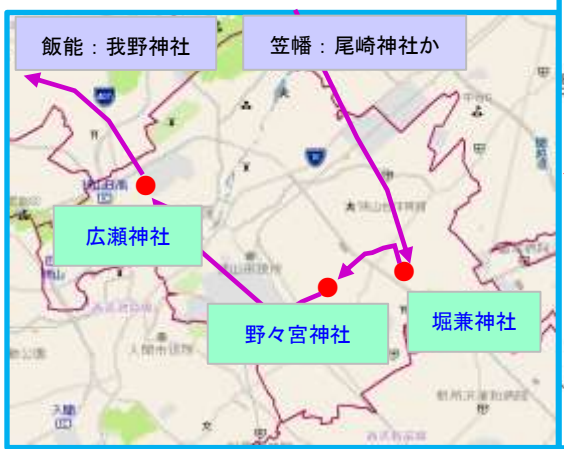
・伊吹山にて急激なゲリラ寒波に見舞われ、低体温状態となり手足に重度の凍傷を負う。
・「醒ヶ井の清水」で傷を癒し、養老付近迄歩き休憩する。
・四日市市から鈴鹿に入るが、遂に、能褒野にて力尽きる。

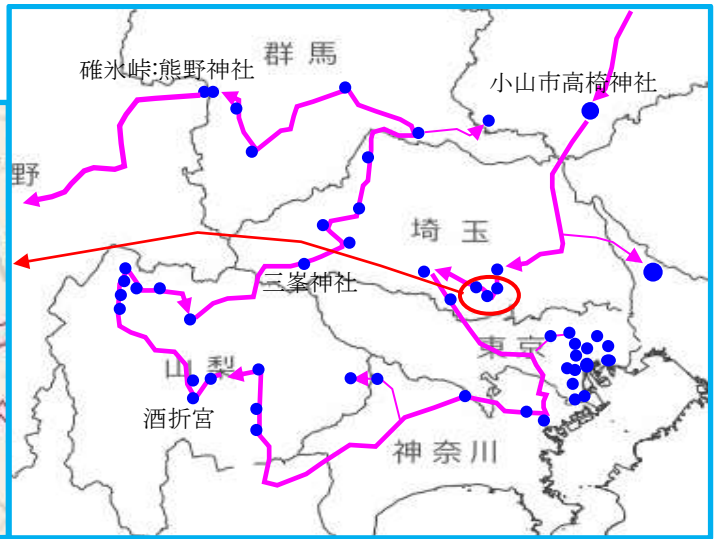


内々神社で副将軍武稲種命が海難事故で死亡の連絡があり、急遽、幡豆郡へ

熱田にて宮簀媛命と結ばれ、ここから伊吹山へ向かう

狭山市内





堀兼神社（堀兼之井）

堀兼神社　所在地　狭山市大字堀兼２２２１

　堀兼神社の祭神は木花咲耶姫命で、合祀神として大山咋命ほか五神を祀る。
　社伝によると、景行天皇の四十年に日本武尊が東北の蝦夷征伐の帰途この地に立ち寄ったところ、土地の人々が旱害に苦しんでいるのを見て、富士山に祈願したら、たちまち清水が湧きだした。そこで土地の人がこのゆかりの地に浅間宮を創建したのが始まりという。
　その後、江戸時代に至って慶安三年(1650)、川越城主松平伊豆守信綱が深くこの神社を崇敬し、家臣の長谷川源衛門に命じて社殿を再建させた。　明治維新後は、「堀兼浅間社」と称していたが、明治五年に村社となり、同四十年から同四十二年にかけて村内の神社十二社を合祀し、社名を現在のものに改称した。
　境内にある「堀兼の井」は武蔵野の高乾台地の飲料水井戸として古くから有名であり、県指定旧跡。また、バラモミは県の天然記念物に指定されている。（注：現在は枯死）なお、堀兼神社の社叢は、昭和五十八年にふるさと埼玉の緑を守る条例に基づく「ふるさとの森」の指定を受けている。　昭和六十年三月　埼玉県、　狭山市

堀兼神社

堀兼の井

堀兼神社のステキ発見

元旦祭、春祭(4 月中旬)、天王さま(7 月中旬)、秋季大祭(10 月中旬)に境内の神楽殿で演じられる

堀上囃子

門の両脇に矢大臣・左大神が鎮座

二神門

野々宮神社（七曲井）

野々宮神社　所在地　狭山市大字北入曽２２７

野々宮神社の主祭神は倭姫命で、合祀神として天照大神ほか六神を祀る。
当社の創立年代は不詳であるが、伝承によれば、日本武尊が東北の蝦夷征伐の帰途、当地に立ち寄り、水を得るため堀難の井を掘らせたという。日本武尊の死後、彼の叔母・倭姫命の一族がこの地に来て土地を開き、社殿を建立して日本武尊並びに倭姫命を祀ったのが始まりと伝えられる。
明治四十年五月に蔵王神社、八雲神社、愛宕神社、神明社を合祀し、現在に至る。
大祭は毎年四月十五日、十月十五日、十一月二十三日で、この日には、文政年間（1818～1830）から伝えられるという市指定文化財の入曽囃子が奉納される。
なお、当社には、奈良、平安時代につくられたと推定される古代甕があり、その創立の古さを偲ばせる。（注：現在は行方不明）
昭和六十年三月　　埼玉県、狭山市

野々宮神社

七曲の井

野々宮神社のステキ発見

入間川七夕まつりで
奉納された入曽囃子

入曽囃子

平間寺（川崎大師）第 41
世が寄贈した水盤

手水舎

広瀬神社

広瀬神社略記

創立

「大和時代の景行天皇（第１２代）の御代、日本武尊命東国を平定の折、当地が大和の国河合の地に酷似せりと称し親ら幣帛を奉り、（大和の国の）廣瀬の神を斎き祀りて、武運長久国家安穏を祈誓せられしより創始せり」との社伝があり、創立は、三世紀に遡る。

由緒

狭山市の社寺誌（市教育員会刊行）において、「当社は、大和朝廷より勅命により官社に列せられた数少ない神社であり、由緒正しく、当時すでに関東において格の高い名神としてあがめられていた・・・狭山市の神社の中ででも最も古く、格式高い神社である」と、記述されている。主たる記録は次のとおり。

（官社）　『文徳天皇実録』の嘉祥３年（西暦 850 年）６月３日の条に「武蔵の国廣瀬の神を官社に列す」との記述あり。

（延喜式内社）　延長５年（西暦 927 年）に編纂された『延喜式神明帳』に「武蔵国４４座　入間郡５座の内一つ　廣瀬神社」と登載されている。

（主祭神）　若宇迦能売命（わかうかひめのみこと）

（相殿神）　八衢比古命（やちまたひこのみこと）八衢比売命（やちまたひめのみこと）
久那斗命（くなとのみこと）

主祭神は、水の守り神であり、風雨の調和による穏やかな世の中、豊かな実りを守る神である。五穀豊穣、家内安全、健康長寿の御神徳がある。水に因んでの崇敬者は遠方からも見える。女神であり、安産や子育て、家族弥栄など他方面の御神徳がある。

相殿神の三神はいずれも禍を防ぐ神である。除災招福や交通安全、疫病退散などの御神徳がある。

廣瀬神社

廣瀬神社のステキ発見

神号額

神輿庫扁額

元旦祭、春季大祭、秋季大祭で奉納される

神輿

大欅

廣瀬囃子

アオバズクは、昨年、「郭公」に巣を荒らされ、今年(5 月～8 月)は姿を見せませんでした

倭(やまと)は　国(くに)の真秀(まほろ)ば

たたなづく青垣(あおがき)　山隠(やまこも)れる

倭(やまと)し麗(うるわ)し

あとがき

・延長 5 年(927)の『延喜式』巻 50･雑式に、「凡諸国駅路植菓樹、令往還人得休息、若無水処、量便掘井」(諸国の駅路には果物の実る木を植え、旅人に休息の場を与えるとともに、飲み水のないところには井戸を掘りなさい) とあります。

【堀兼神社（堀兼之井)】

・狭山市史通史編Ⅰに「七曲井・堀兼之井は古代の入間道沿いに掘られた国衙あるいは郡衙による官製井で、井戸の周辺の遺跡分布調査では当時の集落は認められない」とあります。

・また、堀兼村の開発は承応年間年(1652～54)に松平信綱により開発されたといわれており、景行 40 年(112)頃は堀兼地区に人は住んでいなかったと推測されます。

【野々宮神社（七曲井)】

・堀兼之井と同じく当時の集落は認められないとあり、景行 40 年(112)頃に北入曽地区に人は住んでいなかったと推測されます。ただし、由緒にあるとおり、「大和朝廷が皇威の発揚を図り四道将軍を派遣したときに、社家は神武天皇御東征に従軍し、日向の宮崎宮を姓となし宮崎と称しました。奈良時代、朝廷の命を受けて倭姫命を奉斎し、入間路の警備と七曲井の管理に当りました。東海道、入間路には宮崎を姓とした社家が多く、たとえば井草八幡宮の社家も宮崎を姓としています」とあります。(狭山市 HP より)。

【廣瀬神社】

・狭山市史通史編Ⅰによると、広瀬神社は延喜式に記載された入間郡内の四社の一つで、『日本文徳天皇実録』によると「嘉祥 3 年(850)6 月 3 日の条に「武蔵国の広瀬神が官社に列せられた」とあり、当時すでに格式の高い名神として崇められていた証拠と言える。･･･このような官社制は、朝鮮半島をめぐる国際関係が不安定な状況下の中で各地の豪族の祀る神を天皇の氏神に系列化し、中央集権的国家体制作りを進めたものと思われる･･･なお、当社は元々、入間川河岸段上または中段において創建され、住民の低地への移動と共に現在地へ移ってきたものと思われる」とあります。

・大和の廣瀬大社には武蔵国からの勧請や分社の記録はない･･･廣瀬神社元総代長斎藤義三氏講演資料より

【日本武尊東征軍】

・日本武尊の東征由緒の 140 ヵ所のうち、戦いの記録は「数ヵ所」のみです。残りは神社の創立や祭神崇拝儀礼が殆どです。反逆者鎮圧と国家体制作りが主目的であったようです。軍の構成は軍人・司祭・技術指導者の混成部隊のようで、数ヵ所で「その地に住みついた」との記載があります。

【参考資料】

・古道を歩く（鎌倉街道歴史探訪）奥武蔵古文化研究会　　その他　多数

・平成 15 年、古代史の復元サイト　http://www.geocities.jp/mb1527/index.htm

・狭山市史　原始・古代資料編、地誌編+付図、民俗編+付図、通史編Ⅰ

・該当神社等のウエブ　サイト、国土地理院、古代の海岸線などのウエブ サイト

さやま市民大学地域ｼﾞｬｰﾅﾙ講座

発行者：湯浅洋一

講　師：澤野久美子氏

発　行　2017 年 11 月 1 日

【協力をいただいた方々】　順不同

・狭山歴史ガイドの会：塩崎裕司代表理事、遠藤猛理事、山崎茂理事、名古屋恵二副代表理事

・地域ジャーナル講座：村田光平氏、遠藤和子氏、落合信子氏